

「地球危機の時代に考える自然と人間と実学」

会議名：日本東アジア実学研究会 2022 年度国内大会

日時：2022 年 7 月 23 日（土）

形式：ZOOM によるオンライン開催

主催：日本東アジア実学研究会

趣旨文

21 世紀に入り、地球ということを強く意識する時代に今我々は生きている。我々は、地球市民として、諸国家・諸民族・諸宗教・諸文明・諸文化の間の対話を通して、人類の過去を省み、イデオロギーの対立を超え、核兵器を廃絶し、地球環境問題に対処し、持続可能で多様性に満ちた寛容で平和な世界文化の実現を目指し、未来に向けて創造的に歩むことが求められる。

他方で、今日、地球の各地域で起こっていること、そして自然と人間の生命を育む地球の環境は、危機的かつ終末的な状況にある。2022 年 2 月 24 日ロシアがウクライナに侵攻し、今日も戦争による死者が出ている。新自由主義の経済観は、コロナ・パンデミックにあっても、経済成長優先の政策を促し、経済格差を広げ、教育や福祉、他者のケアに従事する人々や貧困家庭に対して支援の手を十分に行き届かせているとはいえない。さらに、気候変動による各地域での異常気象の発生頻度が上がり、生物多様性の喪失が進み、地球の気温上昇は取り返しのつかない時点に来ている。すべては、人間による自然の搾取、我による他者の疎外と搾取の結果として今の地球の現実があると考えられる。

人間には、自然と人間に対する実在感（Sense of Reality）と生命が育まれることへの心の驚き（Sense of Wonder）がある。今、改めて、人間が持つ本心に立ち返り、自然と他者に対して相互に活力を与える人格的交流の主体としての人間、すなわち“TRUE AND REAL LEARNING”としての実学の担い手である人間のあり方について考えてみたい。

以上のような問題状況の認識に基づき、本大会のテーマを「地球危機の時代に考える自然と人間と実学」とした。本大会における参加者相互の真摯で熱心な対話が、“TRUE AND REAL LEARNING”としての実学、すなわち人文科学的に過去の人類の思想的営為に学び、さらに社会科学的、自然科学的にも、未来に向けての新たな「真実」(true)と「現実」(reality)を探究し、「自分たちの生き方を思想化し、自然と社会に責任をもつ学問」(会則第一条)としての「実心実学」の構築に寄与することを期待したい。